

YU-AP

Yamaguchi University Acceleration Program News

Vol.1

2015年2月号

YU-AP News Vol.1

Yamaguchi University Acceleration Program



教育は加速する。

Contents

巻頭言 …… 2

AP事業全体像の解説 …… 2

テーマIの概要と目標 …… 4

テーマIIの概要と目標 …… 5

イベント紹介 …… 6

YU-AP事業推進スタッフの紹介 …… 7

YU-AP推進室からのお知らせ

ALポイント認定制度が はじまりました！

※ALとはアクティブ・ラーニングの略称です。

山口大学におけるアクティブ・ラーニング

本学におけるALとは、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、認知的、論理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図るため、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法（発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等のほか、教室内でのプレゼンテーション、グループワーク等）を指し、その対象として、授業科目による正課教育だけでなく、授業外学修である正課外教育を含む。なお、授業科目においては少なくとも1コマ以上行うものとする。」としています。

ALポイント認定制度について

ALポイント認定制度とは、授業時間内で、該当するアクティブ・ラーニングの形態が、どの程度行われているかをポイント化して表示する制度です。

ALポイント認定制度の導入について

授業時間内でのアクティブ・ラーニングの度合をポイント化することで、教員と学生がアクティブ・ラーニングに関する認識を高め、大学教育に求められている主体的な学びの促進に役立てることができます。

WEBシラバス画面上に、新しくAL(アクティブ・ラーニング)ポイントの項目が追加され、ALポイントが表示されるようになります。



開講年度	開講学部等		
2015	共通教育		
開講学期	曜日時限	授業区分	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント
後期	未定		

巻頭言



山口大学長
岡 正朗

山口大学は、今年2015年に創基200周年を迎えます。これまで、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を教育理念とした学生中心の大学づくりに努め、教育に力を入れて、数多くの成果を挙げて参りました。

本学では、国際総合科学部の新設、教育学部・経済学部の改組など、全学的組織再編による「山口大学改革プラン」を推進しており、今回採択された文部科学省大学教育再生加速プログラムを通して、大学改革を一層加速することが期待されています。

このことから本学は、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)を、社会が求める新たな人材育成を目指した大学改革を加速する取組として、教育改革の最優先課題に位置付けております。

テーマI「アクティブ・ラーニング」、テーマII「学修成果の可視化」の取組を通して、①多様な学生すべてに対する能力育成を最大限支援する、②本学の教育システムを学生および社会に質保証できる、③本事業成果を積極的に情報発信し、我が国の高等教育全体の発展に貢献することを目指します。具体的には、2013年度に導入した全学部共通履修型の共通教育改革を起点としたアクティブ・ラーニングの全学的な推進・展開のほか、学修到達度調査、学修行動調査、ルーブリック評価を活用した直接評価・間接評価統合型学修成果可視化モデルを構築し、さらには、教学マネジメントを支える教職員能力開発(FD・SD)に取り組んでいます。

この取組みを学内外の多くの皆様に知っていただくため、このたび「YU-AP News」を創刊することにいたしました。積極的に情報発信して参りますので、今後とも、皆様からの絶大なるご支援を賜りますようお願いいたします。

山口大学改革プランを 加速



山口大学は、正課教育と正課外教育の共創により、共通教育を中心としたアクティブ・ラーニングを組織的に推進し、次の時代を切り拓く人材として必要な力の修得を保証するため、先導的な学修成果可視化モデルの構築を行い、学生の学びの好循環を創出する。

【AP事業 全体の解説】

平成26年度「大学教育再生加速プログラム」に採択された本学の取組みは、正課教育と正課外教育の共創により、共通教育を中心としたアクティブ・ラーニングを組織的に推進し、次の時代を切り拓く人材として必要な力の育成を保証するため、先導的な学修成果可視化モデルの構築を行い、学生の学びの好循環を創出する。

テーマIでは、シラバスの可視化を通じたALポイント認定制度導入、AL推進チームによるFD専門集団形成、教員にインセンティブを与えるALベスト・ティーチャー表彰を行う。テーマIIでは、学修到達度調査・学修行動調査・ルーブリック評価を全学的に推進し、各データを活かした直接評価・間接評価統合型学修成果可視化モデルを構築する。高等教育機関、学協会等と連携し、学士課程教育の質保証の新しい“カタチ”を示すことは、本学の特色や強みの向上だけでなく、我が国高等教育全体に与える影響は大きい。



文部科学省大学教育再生加速プログラムテーマI・II複合型 共通教育を中心としたアクティブ・ラーニングの推進と 学修成果可視化モデルの構築

山口大学のこれまでの取組

- 「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を教育理念とした学生中心の大学づくり
- 全学部生対象のTOEICを活用した到達目標を明示した英語力の質保証【特色GP H16-19】
- 組織的な正課外教育の先駆け、学生発案型プログラム「おもしろプロジェクト」【特色GP H17-20】
- カリキュラム・マップ、カリキュラム・フローチャートによる体系化された学士課程教育【教育GP H20-22】

おもしろプロジェクト▶

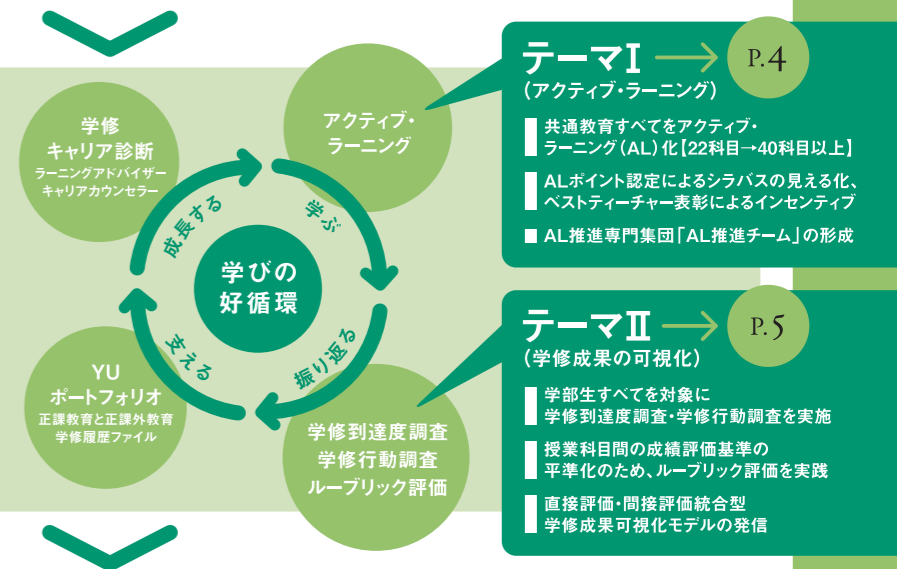
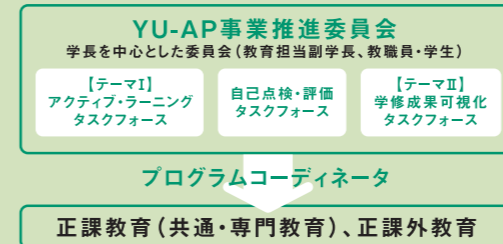


▲山口と世界
(AL科目)

事業実施体制の整備

【学長を中心とした体制】

下図の実施体制を新たに設置し、学長・副学長のガバナンスのもと、教職員・学生が一体となって教育改革に取り組む。



テーマI → P.4
(アクティブ・ラーニング)

- 共通教育すべてをアクティブ・ラーニング(AL)化[22科目→40科目以上]
- ALポイント認定によるシラバスの見える化、ベストティーチャー表彰によるインセンティブ
- AL推進専門集団「AL推進チーム」の形成

テーマII → P.5
(学修成果の可視化)

- 学部生すべてを対象に学修到達度調査・学修行動調査を実施
- 授業科目間の成績評価基準の平準化のため、ルーブリック評価を実践
- 直接評価・間接評価統合型学修成果可視化モデルの発信

「驚き、個性、出会い、夢を発見し・はぐくみ・かたちにする人材の育成」(教育理念)

- 「驚き」——世界や社会にいつも驚きを感じ、過去・現在・未来に問いを発し続ける力【課題発見力・発信力】
- 「個性」——自分を発見し、はぐくみ、世界でたったひとつの存在になろうとする力【主体性・状況把握力】
- 「出会い」——自分を超越してひとに出会い、出会いをはぐくみ、つながりを築く力【傾聴力・働きかけ力】
- 「夢」——過去を受け継ぎ、現実を見すえながら、夢を発見し、夢をはぐくみ、夢をかたちにする力【創造力・実行力】

テーマIの概要と目標

アクティブ・ラーニングの推進!

アクティブ・ラーニングの対象を授業科目による正課教育に限定せず、授業外学修である正課外教育を含み、より多くの学生・教職員がアクティブ・ラーニングの効果を実感できる環境を整備する。

ALポイント認定によるシラバスの見える化、ベストティーチャー表彰によるインセンティブ

共通教育すべてをアクティブ・ラーニング(AL)化
[22科目→40科目以上]

AL推進専門集団「AL推進チーム」の形成

1 学生の主体的な学びを促進する アクティブ・ラーニングの実施

全学部生必修科目『知の広場』『山口と世界』、正課外教育の先駆けである『おもしろプロジェクト』など、学生の発想や行動力を発揮させる教育設計を行っており、共通教育全体のアクティブ・ラーニング化を進める。

シラバスでのアクティブ・ラーニング内容の明記を義務付け、授業及び正課外教育プログラムのアクティブ・ラーニング(AL)度を認定する仕組み(ALポイント認定制度)を導入する。併せて、正課外教育プログラム版シラバスフレームを作成し、その学修成果が可視化できるように整備する。

アクティブ・ラーニングの教育効果について、従来から実施する授業評価アンケートでの授業外学修時間分析のほか、卒業生調査、学生参画型ワークショップの意見等を分析し、改善に活かす。

2 アクティブ・ラーニング 推進のための専門集団の形成

大学教育機構・学部でFDコーディネーターを配置し、アクティブ・ラーニング推進のための専門集団(AL推進チーム)を形成する。AL推進チームの指揮のもと、アクティブ・ラーニングを啓蒙する全学FD・SD研修のほか、スキルアップ向上のためのFD・SDワークショップを実施する。

AL推進体制の整備を通して、アクティブ・ラーニングに関する教育的効果の共通理解や学内におけるグット・プラクティス共有システム(教材・映像共有)を構築し、優れた教育実践を行った教員についてはALベスト・ティーチャー表彰を行う。



【アクティブ・ラーニング】

Active Learning

アクティブ・ラーニングとは、教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、論理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。(中央教育審議会2012年答申)

テーマIIの概要と目標

直接評価・間接評価統合型学修成果 可視化モデルの 構築・発信!

学生の目的や意識の多様化が進み、個々の学生の学修進度やキャリア意識に応じた組織的な学修支援が必要不可欠である。学修成果の多角的な可視化を図り、学修支援及びカリキュラム改善に活かす体制を強化する。

学部生すべてを対象に学修到達度調査・学修行動調査を実施

授業科目間の成績評価基準の平準化のため、ルーブリック評価を
実践

直接評価・間接評価統合型学修成果可視化モデルの発信

1 学修成果可視化モデル構築のための 多角的取組の実施

リテラシー・コンピテンシー測定の学修到達度調査及び学修関与度測定の学修行動調査、授業科目間の成績評価基準の平準化を目的としたルーブリック評価を全学的に推進し、これらのデータを統合分析する直接評価・間接評価統合型学修成果可視化モデルの構築を行う。

学修成果可視化モデルで収集した学生データは、従来から実施する授業評価アンケートでの授業外学修時間分析のほか、卒業生調査、学生参画型ワークショップによる意見等と分析し、ナンバリング等の教育課程体系化の検証に活かす。

2 学修成果測定を支える 教学マネジメントの強化

エンrollmentマネジメント(EM)に基づくIR(Institutional Research)を機能させ、学修データを収集分析し、学修支援やカリキュラム改善に活せる教職員育成(FD・SD)を実施する。

教学マネジメントの要として、プログラムコーディネータのほか、ラーニングアドバイザー、キャリアカウンセラーを配置し、本取組の実質化を図る。



【ルーブリック】

Rubric

ルーブリックとは、米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難な、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。(中央教育審議会2012年答申)

山口大学・大学コンソーシアムやまぐちSDセミナー2014

2014年12月19日(金)に、山口大学・大学コンソーシアムやまぐちSDセミナー2014『大学職員の企画力が大学を変える』を、県内の公私立大学はもとより遠くは埼玉大学や大学評価・学位授与機構からの参加があり160名以上を集め、本学吉田キャンパスにおいて開催した。本セミナーは、山口大学・大学コンソーシアムやまぐちの共同主催、大学マネジメント研究会の共催で、山口大学が採択された文部科学省・大学教育再生加速プログラム(AP)における教学マネジメント強化のための研修の一環として実施された。

冒頭、岡 正朗 山口大学長より開会挨拶及び趣旨説明があり、今回のSDセミナーに大勢の参加者があったことは、本学において、地域において、大学職員の企画力の重要性の認識の表れであるとの説明があった。

第一部の基調講演では、まず、本間政雄 学校法人梅光学院理事長(大学マネジメント研究会会長、元京都大学理事・副学長)より、「今、期待される大学職員の企画力」と題して講演があった。18歳人口の減少に伴い、大学は自己改革力



が試される時代になっている。そのような厳しい時代状況の中で、大学職員は知恵を絞る仕事に従事する必要がある。具体的には、「課題設定力・企画力・実行力」を身につける必要があり、そのためには、高い志や前向きな勉学精神を心がけることが大切であると力説された。

次に、末次剛健志 佐賀大学総務部企画評価課係長(IR主担当)より、「若手職

員から育む企画力」と題して講演があった。佐賀大学が行う「事務系職員クラブ制度」の紹介があり、プロパー職員の自由な発想・提案が活かされるモチベーションな職場環境創出の工夫が感じられた。

また、佐賀大学版IRの考え方が紹介され、コンセンサス形成のための情報提供としてのIR、厳密性に固執せず、気づきや改善のきっかけづくりとなるIRなど、大学運営におけるIR機能の重要な捉え方の説明があり、大学職員としての貢献度の重要性も力説された。

第二部のグループワークセッションでは、林 透 大学教育センター准教授及び河島広幸 大学教育センター助教(特命)のファシリテーションにより、「Let's Ch-



共育ワークショップ2014

2014年9月22日(月)午後、山口大学創基200周年記念・共育ワークショップ2014「みんなで山大の教育(共育)について語ろう!」が、総合図書館・アカデミック・フォレストにて、教職員・学生60名以上を集め、開催された。冒頭、岡 正朗 学長より開会挨拶があり、山口大学憲章に刻まれた「共育(共に働く)」の重要性に言及するとともに、10年後の山口大学ビジョンに向けた積極的な提案への期待を述べられた。また、林 透 大学教育機構大学教育センター准教授より、本ワークショップは教

員・職員・学生による共育の場づくりを目的とし、今回は、廣中平祐 元学長が提唱した「発見し・はぐみ・かたちにする」という教育理念の理解を深めながら、具体的なアクションプランを提案することが狙いである旨の趣旨説明があった。

全体発表では、学生だけでなく、教職員が前向きに発表する姿勢が印象的であり、「山口大学が満足度第1位、山口県サミットを山口大学にて開催」「山口大学を『みんなで大学』に改名、多言語あいさつ運動の進展」など、学生や地域に愛さ

れる山口大学の未来が提案され、これからの各種改革等に活かしていくこととした。最後に、額 厚 理事・副学長より閉会挨拶があり、このようなワークショップの機会を通して、「共育」の精神が徐々に実を結びつくことの期待が寄せられた。



allenge ~大学職員の企画力が大学を変える~というテーマでグループワークを行った。会場一杯となる11グループでの議論は非常に熱気を帯びた。



後半の全体発表では、「現状・課題」「企画提案」「実施体制」「評価(達成度)指標」を明示したグループ・プロポザルによるプレゼンが行われ、きめ細かい学生支援、前提踏襲的な業務の改善、学生に向けた確かな情報発信、教職協働型プロジェクト、入学者確保の方策、大学運営費の確保などの積極的な提案が行われ、実現可能性の高いものが多かった。

最後に、田中和広 山口大学理事・副学長より閉会挨拶があり、学内外の大学職員が交流する素晴らしい機会となり、今後も継続的にこのような場づくりを行っていくこととした。



Editorial Note 【編集後記】

山口大学は、2014年の秋より大学教育再生加速プログラム(AP)に採択され、様々な取り組みに着手しています。「山口大学改革プランを加速!!!」するために、アクティブ・ラーニングを組織的に推進することと、先導的な学修成果可視化モデルを構築することを柱として事業が進んでいます。この度、アクティブ・ラーニングを推進する一環として、「ALポイント認定制度」がはじまりました。本制度は、授業で行われているアクティブ・ラーニングをポイント化してシラバスに表示する制度で、教員と学生が互いによりアクティブ・ラーニングを意識することで、学生の主体的な学びが促進されることを趣旨としています。また、アクティブ・ラーニング対応教室の整備も進んでいます。



可動式のイスと机を配置することで、自由なスタイルの授業を展開することができます。



明るい色合いで学びが刺激されることが期待されます。

学修成果可視化モデルの構築は、現在進行中ですが、学修到達度調査と学修行動調査がすでに実施されており、直接評価・間接評価統合型学修成果可視化モデルの構築に向けて、着実に進んでいます。今後とも山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)にご注目ください。

编者一同

Staff 【YU-AP 事業推進スタッフ】

林 透

大学教育機構
大学教育センター
准教授

YU-APのチャレンジで
教職協働をカタチに
したい!

河島 広幸

大学教育機構
大学教育センター
助教(特命)

2014年の秋より新任
の河島です。維新回天
の山口から大学教育
再生加速を進めてまい
ります。

河川 美由紀

学生支援部
教育支援課
事務補佐員

YU-AP事業推進スタッ
フの皆さんと一緒にAP
事業を盛り上げてまい
ります。

森重 孝代

学生支援部
教育支援課
事務補佐員

教育再生(AP事業)に
携われることを光栄に
思います。少しでも力に
なれるよう頑張ります。

古谷 涼

人文学部2年

創基200周年を機に、
最後になるかもしれない
学生生活をより充実さ
せましょう!

福屋 里紗

教育学部3年

色々と勉強させていた
だきながら、少しでもお
役に立てるように頑張っ
ていきたいです。

奥田 真也

経済学部2年

経済学部経営学科2年
の奥田です!大学でもっ
と面白くことに皆さんと
チャレンジしていきたいで
す!

朴 玲

経済学部2年

創基200周年を迎えて
さらに学生満足度の高い
山口大学を目指してい
きましょ!

杉元 茜

理学部3年

学生の立場から、YU-
AP事業を活性化させて
いきます。

朴 珉嬌

理学部3年

少しでもありますが、活
動に関わらせて頂いて
光栄です!次も機会があ
る時はもっと力になれる
ように頑張りたいです。

井本 圭祐

理学部1年

学生視点の発想で、大
学教育に新風を巻き起
こせるよう頑張ります。

古谷 晃一

農学部2年

創基200周年の流れに
のって、山口大学をより
良いものにします!